

報 告 書

| | | |
|----------------|--|------------|
| 開催日時 | 平成 24 年 5 月 14 日(月) 午後 7 時～午後 8 時 30 分 | |
| 開催場所 | 市役所 (3 号棟) | |
| 出席議員 | 挨拶 小松 眞 | |
| | 司会進行 | 菅野 広紀 |
| | 報告者 | 及川 修一 |
| | 記録者 | 松田 信之 |
| | 出席議員 | 佐々木一義、伊勢 純 |
| 参加人数 | 10 名 | |
| 主 な 要 望・提言等 | <p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 結果の報告だけでは興味と関心に欠ける。参加者の少なさがその結果ともいえる。 報告会の開催の在り方を大いに検討すべきである。 ・ 議会報告会への参加者が 10 人程度だが、議員はどのように感じるか。 ・ 予算化がされているにも関わらず、復興・まちづくりの動きが見えない。 ・ 高台移転に関わっているが、土地の確保から地権者との交渉と難題が多い。積極的に議員も交渉などに関わってほしい。 ・ 高台の土地がバブルのように高騰している。被災者が購入できる価格ではなく、県への要望なり適正価格以上にならないような条例をつくるなどしてほしい。 ・ JR 大船渡線については、沿線自治体が統一行動をとるべき、一方で陸前高田大船渡間は三陸鉄道への編入も視野に入れてはどうか。 ・ 市当局との説明会などを含めた意見交換の場が少ない。また、市からの情報開示や提供が少ないように感じる。 ・ 交通弱者としての立場から、何としてもバスや自動車など交通手段の確保を急いでほしい。必要からどこに出かけるにも大変不便を感じている。 ・ 浸水を受けた自分の土地の鑑定・評価を知りたい。生活の再建を考えるとからも情報の開示やその提供を行ってほしい。 ・ 復興は「道路」からと考える。進展しているとは考えられず、進捗状況等どのようなになっているのか知りたい。 ・ 復興(計画)の進捗など、市民への説明があってもいいのではないか。 ・ 土地の区画整備事業などはいつ頃から始まるのか。 ・ 仮設(生活)の延長が予想されるが、仮設の造り方から耐久性などに問題が出てこないか心配である。 ・ 早く学校の校庭(仮設)を開放したい。そのためにも早期に県営・市営の住宅の確保を期待したい。 ・ まちづくりにおける「協働」とは何かを聞きたい。ソフトの面の工夫が必要と考える。 | |

| | |
|-----|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・老舗の事業者も市外へ移転するなど雇用の場がない。対策の強化が急がれる。 ・高田町は古来より商いのまちであった。そのようなまちに相応しい自然の再生エネルギーの導入（企業の誘致）が必要ではないか。 |
| 所 感 | <p>小松 眞</p> <p>高田地区においても議会報告会の参加者の少ないことが指摘され、報告会のあり方の工夫が求められた。</p> <p>被災者の切実な声として、高台移転等土地の確保について、自由経済の中ではあるが、バブル時代のように高騰しており、高齢者やお金の調達が難しい者には自立再建は難しい。条例等の法的規制が求められた。</p> <p>松田 信之</p> <p>提案としての意見が多く見られ、施策への参考となった。</p> <p>伊勢 純</p> <p>公営住宅や高台移転、土地区画事業などの見通しが立たず不安に感じている等のご意見があった。しかし、おおまかな事業に必要な年数の説明があり、発言された方は納得するという場面があった。事業の見通しについてのわかりやすい提示が必要とされていることを感じた。</p> <p>佐々木 一義</p> <p>復興の動き全く見えない。自力で自宅再建しようと考え、土地を探しても、地代が高騰し再建できない状態だ。市として規制をかけることはできないのか。</p> <p>仮設住宅では死にたくないの、災害公営住宅を建設して欲しい。</p> <p>高台に家を建てたいので、浸水地区の自宅の土地価格を知りたい。</p> <p>交通弱者のために、JR全線復旧では時間がかかるので、BRTでもいいから早く動いて欲しい。</p> |

陸前高田市議会議長 殿

平成24年5月31日

陸前高田市議会議会報告会開催要綱第10条第1項の規定により提出します。

平成24年度議会報告会第1班

班長 小松 眞 ㊟